

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (\$)	日本円	備考
授業料	5,622	821,057 円	
宿舍費	9597	466,799 円	ミールプラン\$2,058 込
食費	664.87	99,559 円	
図書費	0	0 円	
学用品費	35	5,244 円	教科書
携帯・インターネット費	116	16,936 円	
現地交通費	307.48	44,835 円	(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	1334.34	185,252 円	
被服費	0	0 円	
医療費	0	0 円	
保険費	830	170,648 円	形態: 留学先大学(\$830/¥120,253)と明大(¥50,395)の保険にそれぞれ加入
渡航旅費	N/A	276,615 円	日本円で取引
ビザ申請費	160	23,360 円	
雑費	53.86	8,036 円	日用品
その他		円	
その他		円	
合計	18720.55	2118,341 円	

渡航関連			
渡航経路			
往路 出発地:羽田空港 目的地:ロサンゼルス空港 経由地:			
復路 出発地:ロサンゼルス空港 目的地:羽田空港 経由地:			
渡航費用			
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: JAL 料金: 27,6615 円			
② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社: 料金: 復路 航空会社: 料金: ∴合計:			
航空券購入方法			
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:)			
<input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名: JAL ホームページ)			
<input type="checkbox"/> その他()			

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

学生寮(寮の名前: On-Campus Housing) アパート ホームステイ

2)部屋の形態

個室 相部屋(同居人数8人)

3)共有部分

バス トイレ キッチン(自炊可 自炊不可)

4)住居を探した方法:

オンラインのフォームで申し込みをします。

5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

新しい寮なのできれいでした。良い点は学校内にあるため、通学がとても楽であることと、冷蔵庫や勉強机など基本的な設備が整っていることです。問題点は費用が高いことと、ミールプランの食事に飽きてしまうことです。また、8人部屋なので、ルームメイトがうるさくて困ることが良くあります。キャパシティが少ないのでキャンセル待ちになり、入居がなかなか決まりませんでした。

現地情報

1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院、学内の診療所)

なし
あり(治療を受けた場所:)2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。
(例:留学先大学の相談窓口、現地の友人等)なし
あり(問題の内容や相談した人等:)

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?

旅行ガイドブックに危険な地域や避けるべき行動などが載っているのでそれを参考にしました。フラトンは比較的安全な場所で、危険を感じることはなかったです。隣の町のアナハイムにはホームレスがいるので、近寄らない方が安全です。

4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WiFi 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

携帯電話は日本で SIM カードを購入したため、現地に到着してすぐに使うことができました。Wi-Fi は建物内はもちろん学校の敷地内では屋外でも接続できます。接続は安定していると思います。

5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

基本クレジットカードで買い物をしました。現金は渡航前に両替してアメリカドルを持参しました。足りない分は現地でキャッシュカードを用いて引き出すことができました。

6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。

基本的に現地で調達可能です。カリフォルニアは日本人居住者が多いため、日本食スーパーなども存在し、割高になりますが日本のものを購入できます。

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

授業料は渡航前にクレジットカードで支払いました。学生番号を受け取ったら、自身のポータルサイトアクセスすることができ、支払いが可能です。8月にメールで案内が来るので、それに従えば大丈夫です。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
12 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 12 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input type="checkbox"/> 出発前 <input checked="" type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
International Relations	国際関係
科目設置学部・研究科	Political Science
履修期間	1 学期
単位数	3
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 75 分が 2 回
担当教授	Simon H. Tang
授業内容	国際関係論のセオリーを学び、最近の世界の情勢や国際政治の課題について分析する。
試験・課題など	中間試験・期末試験有り。グループごとにアメリカの中国に対する外交政策を提案するレポート
感想を自由記入	この授業は私の関心に合っていてとても面白かったので、政治学の分野が自分に向いていると分かりました。この授業では、それぞれが一つの国際関係論のセオリーを支持し、グループでディベートを行いました。私はリベラリズムのチームだったので、このセオリーに関する深い知識を得ることができました。現地の学生とのグループ活動を通して、コミュニケーション能力や協調性が身に付きました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):
Race and Ethnic Relations		人種と民族
科目設置学部・研究科	Sociology	
履修期間	1学期	
単位数	3	
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1週間に 75 分が 2 回	
担当教授	Edward Watson	
授業内容	人種の観点からアメリカ社会の問題について考える。	
試験・課題など	中間試験有り。期末試験または授業の振り返りレポートのどちらかを選択	
感想を自由記入	私は、アジアからの留学生として、人種というテーマは自分にとって関係があると思ったので、この授業を履修してみました。日本では学ぶ機会が少ない科目なので、貴重な経験ができました。クラスメイトはラテン系やヒスパニックの人が多く、そのような生徒と交流することができたのはとても刺激的でした。生徒たちが積極的に自分の意見を発信していたので、とてもアクティブな授業でした。彼らの多くは自分自身もしくは家族が移民であるため、経験を通して感じるものがたくさんあるのだと思います。日本では他の人種との関わりが少ないので、この授業を受けたことで私の多様な人種に対する視野が広がりました。	

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):
Introduction to Japanese Civilization		日本の文明
科目設置学部・研究科	Japanese Studies	
履修期間	1学期	
単位数	3	
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1週間に 75 分が 2 回	
担当教授	Kazuha Watanabe	
授業内容	原始時代から戦国	
試験・課題など	中間試験・期末試験有り。ペアでプレゼンテーションとレポートの作成を行う	
感想を自由記入	日本史を英語で学ぶのは新鮮な感じがしました。最終課題では、ペアで日本史の中から興味のあるピックについて調べ発表するというプロジェクトがありました。初めて日本の歴史に関する英語の書籍に触れ、珍しい単語が出てきたり客観的に描写されていたりしたので面白かったです。私たちは紫式部と日本のポピュラーカルチャーの関係について調べ、海外でも知名度の高い偉人であるため現地の学生に興味を持ってもらえるよう考えました。	

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Modern Japan		現代日本	
科目設置学部・研究科	Japanese Studies		
履修期間	1学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 75 分が 2 回		
担当教授	Kazuha Watanabe		
授業内容	江戸時代から現代		
試験・課題など	中間試験・期末試験有り。ペアでプレゼンテーションとレポートの作成を行う		
感想を自由記入	<p>アメリカ人の視点で戦争について学習し、歴史的事実だけでなく国同士の関係性という面で、学ぶことが多かったです。先生は日本人ですが、日本の肩をもつことなくできるだけ中立に教えようとしている様子がうかがえました。歴史は自国に偏った解釈になりがちですが、中立な立場で観察することが大切だと改めて感じました。自分の知識が、主観に影響されていることに気づききっかけになり、歴史を外側から眺めてみるのも面白かったです。</p>		

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)
※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)
※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	TOEFL 受験
留学開始年	1月～3月	出願・選考・オリエンテーション
	4月～7月	航空券購入・VISA・住居の確保・JASSO 事前学習
	8月～9月	荷物準備・出発・中間試験
	10月～12月	期末試験・帰国
留学/帰国年	1月～3月	JASSO 事後学習
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイスなど、自由に記入してください。

私がカリフォルニア州立大学フラトン校を選んだのは、アメリカ社会の多様性と、カリフォルニアの豊かな自然や美しい景色を感じたいと思ったからです。フラトンは郊外で治安が良く、のどかな街です。出発前はアメリカに対する憧れが強く、不安などはありませんでした。しかし、実際にアメリカでの生活を経験してみると、毎日が驚きの連続であり、同時に慣れない異文化に戸惑うこともありました。私は特に食生活にストレスを感じ、それがきっかけで自炊に挑戦しました。カリフォルニアは多様な人が集まる場所ということもあり、たくさんの文化に触れることができます。日本の商品を扱うスーパーがあると知ったときは驚きました。日本食を手に入れることもできるので、カルチャーショックも乗り越えられました。実家暮らしの私は今まで親に依存している部分が多かったのですが、留学をきっかけに自分の身の回りのことを自分でこなせるようになり、自立に一步近づいたと思います。留學生生活の良かった点は、交流関係が広がることです。学校には様々な人種の生徒や留學生がいたので、刺激的な出会いがたくさんありました。私は日本語の授業にティーチャーアシスタントとして参加し、その活動を通して現地の学生と友達になることができました。彼らは日本に興味を持っているので、とても話が合い、一緒に遊びに行くこともありました。いつか彼らが日本に来た時はまた会えたらうれしいです。大変だったことの一つは、さまざまな手続きが複雑な点です。授業料の支払いや履修のシステムなど、分からないことばかりでした。メールで質問しても、学校の対応が悪くなかなか返信が来ないので、根気強く何度も働きかける必要があります。また、海外渡航の経験がない私は、時にホームシックになることがありました。その時は親や友達と電話をしたら少し安心して落ち着きました。これから留学を考えている人には、積極的になることをお勧めします。アメリカにはチャンスがたくさんありますが、自らつかみにいかなければなりません。自分からいろいろなことに挑戦する人と、受動的に機会を待っている人とは、得られる経験や達成度に大きな差が生まれると思います。例えば、進んでクラブ活動や学校のイベントに参加することで、たくさんの人と知り合うことができ、コミュニケーション能力も身に付きます。また、留學中は慣れない生活にストレスがたまることが多いと思いますが、その際は日本人留學生に相談してみるのが良いと思います。同じ境遇にいる日本人の友達は、状況をよく理解してくれるはずですが、ストレスを感じたときは息抜きも必要です。私の場合は思っていた以上に自由時間があつたので、学期中であっても旅行など余暇を楽しむことができました。勉強をするときは集中して頑張り、遊ぶときは思いっきり遊ぶというけじめをつけ、両立するよう心がけました。留學では楽しいことも大変なこともあると思いますが、前向きに頑張ってください。